

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算97号）
令和4年6月24日
三条市教育委員会
教育センター 発行



三条学園
上林小学校の運動会に第三中学校の生徒
が運営役員としてボランティアで参加

防災教育の意義と災害が教えてくれたこと

学校教育課 統括指導主事 相田 寛

6月19日（日）に三条市水害対応総合防災訓練が行われました。本年度は、子どもたちの登校開始時刻に登校を止めなければならない極めて難しい想定での訓練でした。登校途中の子どもたちの安全をどう確保するか、登校しない児童生徒の安否をどう確認するかなど多くのことを考えさせられる訓練でした。

学校では、新潟県防災教育プログラムを自校化し、計画的に防災教育を実施していることと思います。防災教育のねらいは、命を守ることを学ぶことです。そのためには災害発生の仕組みや地域の実態を知ること、災害への備えや発生時の対処の仕方を学ぶこと、そして子ども自身が命を守る行動を実践に移す意欲・態度を育むことが肝要です。平成16年の「7.13水害」を知らない現在の子どもたちに対して、いかに「自分事」として命を守る行動を考えさせられるかが教師の腕の見せどころだと思います。生涯に渡って必要な防災教育を通して、子どもたちの「生きる力」が一層育まれることを強く願っています。

平成16年の「7.13水害」では、私の自宅は五十嵐川堤防決壊箇所のすぐ近くであったことから、自宅の再建や避難所での生活、多くの方々からの励ましなど、さまざまな経験をさせてもらいました。あわせて、学校で一晩過ごした当時小学生の私の子から「先生とトランプをして楽しかったよ」という言葉を聞いた時、学校の先生の偉大さと献身的な対応にただただ感謝したことを覚えています。災害後には、自宅に住むことができない多くの子どもたちを、友達や先生方との学校生活が支えてくれました。子どもたちにとっての学校の存在意義を強く感じた経験でした。

学 園 紹 介

一ノ木戸ポプラ学園

中学校3年生と小学校1・2年生とが
リトルティーチャー活動を行いました。

一ノ木戸ポプラ学園では、小学生と中学生との交流活動を「リトルティーチャー活動」と銘打ち、学ぶ楽しさや意欲・自己有用感・達成感を味わうことを目的として行っています。
先日は、中学校3年生が小学校1・2年生の体力テストの補助を行いました。



まず、中学校3年生が反復横跳びの見本を見せました。中学生のスピードと迫力におもわず「すごい！」と歓声を上げる小学生。
自分たちも中学生のお兄さんやお姉さんのように速くやりたいと意欲を高め、テストに臨みました。

小学生が行っているときは、中学生が数を数えました。「頑張れ！」と励ましたり、「すごかったね！」と認めたりする姿が微笑ましかったです。小学生から「ありがとう。」と言われ笑顔になり、自己有用感を高めた中学生です。

今後も様々な活動で小学生と中学生との交流を行っていきます。



三 条 学 園

5月17日（火）、三条学園 KUSS 総会（研修総会）が行われました。全体会では、グランドデザインや研修組織改編等、キャリア教育を中核とした令和4年度学園運営方針について説明がされ、会員全員で共有しました。各部会から主な活動として、「安全マップの更新」「あいさつ運動・あいさつ標語」「学園だよりの毎月発行」が提案されました。

全体会の後、「キャリア5部会」に分かれ、活動計画について話し合いました。新しい仲間との意見交流が活発に行われ、校内や学園の交流活動を徐々に再開させていくことも検討されました。



会員自己紹介



部会での意見交流

さかえ学園

学園のグランドデザインや推進組織、活動計画を共有し、連携を図るために、5月に小中一貫教育推進会議を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、全体会は放送で実施し、その後、前半は各教科・領域部会、後半は係会に分かれて協議しました。自校の実態をふまえて情報交換をしながら、小中一貫教育の推進に向けて、「目指す子どもの姿」「指導の重点」を共有しました。



5月9日（月）小中一貫教育推進会議



5月28日（土）フラワーロード除草

さかえ学園では、フラワーロード活動を通して、小中学生と地域の方々との交流の場を設け、故郷を愛する気持ちを育て、地域と共に成長していることに感謝の気持ちをもつことを目指しています。スイセンの球根植え活動も11年目を迎えました。学園運営協議会では、感染症予防に努めながら交流を深める活動やフラワーロードの除草などについて意見が交わされました。

大崎学園



5月25日（水）双華会総会

今年度、久しぶりに5～9年生が集まって双華会総会（児童生徒総会）を開催することができました。今年度のスローガンは、「ODGs（Osaki Development Goalsの略）」です。

「一人一人ができることを考え、行動し、さらに発展したよりよい大崎学園をつくっていこう」という思いが込められています。右下の写真は、本部と文芸部が協力して制作したスローガンポスターです。1～9年の学年ニックネームが描かれています。

過去2年間は感染症拡大防止対策でテレビ画面を通しての参加でした。そのため、集会形式の参加経験がある学園生は一部だけになっています。5年生から総会に参加する形式は大崎学園の大きな特色であり、「大崎プライド」を確実に引き継ぐ大切な場となっています。

生徒会本部が学園生の声を取り上げながら、自分たちの姿を確認し、全体をリードすることが期待されます。



また、6月5日（日）に、今年度1回目のPTCAボランティアを実施しました。

当日は青空の下で、前期・後期の学園生、保護者、地域と一緒に作業することができました。今回はプランターや地域花壇の整備作業を行いました。



6月5日（日）PTCAボランティア

PTCAボランティアは、大崎中学校の時代から続く伝統的な活動であり、今年も活動とともにその思いや願いを着実に引き継ぐことができました。

環境教育研修会 令和4年5月26日(木)

「かんきょう庵」「清掃センター」を会場として実施しました。

「かんきょう庵」では、「三条市の環境施策」「清掃センターの取組」について学びました。新聞紙を活用した「防災スリッパ」「簡易ごみ入れ」の作製にも取り組みました。新聞紙を利用した防災グッズは、子どもでも簡単に作ることができるので、参加者からは「学校で子どもに紹介したい。」という声が多く聞かれました。



新聞紙を活用した「簡易ごみ入れ」作成



「清掃センター」の施設見学と説明

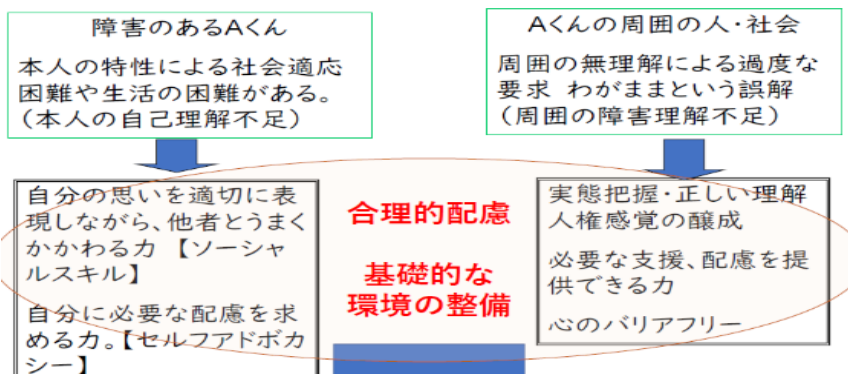
「清掃センター」では、実際にゴミ処理を見学しながら、それぞれの役割についての説明を受けました。「環境に配慮した設備についての詳細を知ることができてとてもよかった。火災の様子を見ることができ、処理の仕方に十分気を付ける必要があることを子どもたちに指導できそうである。」との感想がありました。今後多くの学校で予定されている社会科見学に向けて、効果的な研修会となりました。

インクルーシブ教育システム研修

令和4年6月7日(火)

上越教育大学准教授の関原真紀様から、ユニバーサルデザインやインクルーシブな授業づくり、児童生徒の実態把握と合理的配慮、自立活動の視点を生かした個別の指導計画の活用など、基本的事項から具体的な実践例まで幅広く御指導いただきました。

授業中にぼんやりするなど主体的に参加できていない児童生徒の姿は、授業改善を考える上で大切であると捉え、すべての児童生徒が主体的に楽しく「わかる・できる」授業をつくるためにはどうすればよいかを考える機会になりました。



インクルーシブ教育：我々が目指す共生社会の形成者の育成